



第6回ワークショップ
「新図書館整備基本構想（案）を考えよう
—新図書館の今後の使い方—」
新図書館をより使いやすい
施設・空間とするために

令和4年6月12日（日）、狛江市の新図書館を考える市民ワークショップを開催し、総勢12名の方にご参加いただきました。現在、狛江市では市民センターの改修、新図書館の整備について検討を進めており、本ワークショップは市民の皆さんから意見をいただくことを目的に実施しました。今回のテーマは「新図書館整備基本構想（案）を考えよう—新図書館の今後の使い方—」。ワークショップのはじめには、前回の結果の振り返りや、基本構想案の紹介などを行いました。グループワークでは、2チームに分かれ、基本構想案を基に、新図書館の今後の使い方などに関して話し合っていました。グループワークの後、各チームで話し合った内容を発表していただきました。

市民ワークショップでのご意見（一部抜粋）



ひまわり
チーム



- ・電子書籍に関して、充実を求める意見もある一方で、紙の本とは別物との意見もあった（新刊が電子書籍にならない、権利購入のための費用がかかるなど）
- ・市民センターから新設図書館まで、遊歩道を整備
- ・狛江の特徴を反映させた図書館としたい
- ・多くの人から共感を得られる資料を置いてほしい
- ・図書コーナー、フリースペースに電子書籍端末を置いてほしい

- ・図書館連携：各図書館を繋ぐ巡回車の頻度を上げる、学校と公共図書館との共通貸出システムの検討、地域センターの児童書貸し出しサービスの強化、図書館連絡バス、図書館アプリを開発などの意見
- ・新設図書館と図書コーナーの間は315mであっても歩くのは大変
- ・対面朗読室はもう少し広くしてほしい
- ・図書コーナーは本を読むのが楽しくなる場所、子ども図書館では五感を刺激する展示やサービスの提供
- ・寄ってみたいくなるような配架デザイン ・蔵書数ではなく、空間が豊かな施設
- ・武蔵野プレイスのような図書館
- ・狛江や多摩を知るためのスペース、お店にちょっとした本棚、まちかど図書室
- ・交流：カフェ・オープンスペース、障がい者の雇用
- ・レファンレンス：カウンターに相談窓口を、助かったと思えるような図書館
- ・新しい図書館のバックスペースが不足するのではないか
- ・図書館スタッフが2館に分かれると大変ではないか
- ・閲覧・蔵書それぞれのスペースは十分か
- ・新聞 / 雑誌が新設図書館と図書コーナーに分散するのは使いにくい
- ・電子書籍の有効性は未知数

うちわ
チーム

